ジオ情報検索報告書

(公開地理・地質・地盤、地震災害リスクなど)

報告書名:見本東京都大田区糀谷町

注文コード: GS659

作業内容: 公開ジオ情報検索および報告書取りまとめ

検索出力: 2010年05月17日

報告出力: 2010年05月17日

報告者: (株)ジオネット・オンライン

<注意>

この検索レポートは、お客様のご指示によって、公開されている各種の情報源からデータを検索し、取りまとめて報告するものです。お客様は本サイトからお客様に提供される情報については、情報源で規定されている利用制限等に従ってお取り扱いいただきますようお願いいたします。各情報の取得元は、本レポート内に表記してあります。

なお、本サイトからお客様ご提供申し上げる情報は、当社が独自に定めた「ジオ情報検索サービス利用ガイドライン」(本報告書表紙背面)の範囲でご使用されるのであれば、情報提供者が利用者にそれぞれ課している制限を超えることがないことを確認しております。当「ジオ情報検索サービス利用ガイドライン」の各条項をご了承いただき、この範囲内でご提供情報をご利用いただきますようお願いいたします。

株式会社 ジオネット・オンライン Geo-net Online Co., Ltd

本社 (営業・総務) 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2丁目4番6号

F&F ロイヤルビル4F tel: 03-5298-8444

「ジオ情報検索サービス利用ガイドライン」

(本業務サービスの概要)

1.本業務サービスは、お客様のご指示により、指定された地点・地域に関するジオ情報を収集しジオ情報 検索報告書(PDF)等としてとりまとめ、お客様にご提供するものです。

(お客様と情報提供者との関係)

2.本業務サービスは、お客様のご指示によって行う「情報検索取りまとめ代行サービス」です。提供される情報には、情報提供者から取扱い等に関する制限が課せられている場合があります。お客様は、提供情報の利用に当たっては、情報源者のホームページなどに示されている制限事項についての確認を、直接行っていただきますようお願いします。情報の引用先は、提供情報に明記されています。

(本サービスの提供情報のご利用にあたっての当社独自規定)

3. 本サービスでお客様に提供する情報は、当社が独自に設けた以下の規定に基づいて取りまとめています。お客様がこの規定の範囲内で、お客様自身がご利用になるのであれば、一般に上記2.の「情報源者が課す制限事項」を超えることが無いことを確認しています。

それぞれの収集データには、そのデータの出所を明示しています。

国土地理院の「刊行物に少量の地図を挿入する場合」の規定(*1参照)の範囲内で取りまとめています。 ご提供するデータの利用は、お客様の私的利用に限らせていただきます。また、本資料に掲載したデータを、第三者に提供する目的で加工、再利用及び再配信することはできませんのでご注意下さい。

ご提供する情報は、オリジナルのデータを加工しているため、精度や内容等の正確さは保証されません。この情報の利用の結果、お客様が被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。

以上

(H21.4.1 株式会社 ジオネット・オンライン)

* 1 国土地理院の「刊行物に少量の地図を挿入する場合」の規定

(国土地理院ホームページ http://www.gsi.go.jp/LAW/2930-meizi.html)

刊行物等の内容を補足するため、下記基準程度の少量の地図等を補助的に挿入する場合の利用申請は必要ない。

書籍、冊子、報告書、リーフレット等

- ・書籍等の1ページの大きさに対し1/4以下の大きさで地図等の一部を掲載する場合
- ・書籍等の1ページの大きさに対し1/2以下の大きさで地図等の一部を掲載する場合 書籍等の総ページ数の30%以内
- ・書籍等の1ページの大きさに対し1/2を超え、1ページに収まる大きさで地図等の一部を掲載する場合 書籍等の総ページ数の10%以内
- ・書籍等の内容に合致する地図等の一部を書籍等の表紙に利用する場合

Webサイト等

- ・300×400ピクセル以下の大きさで地図等の一部(ラスタ形式)を掲載する場合
- ・300×400ピクセルを超え、画面に収まる大きさで地図等の一部(ラスタ形式)を掲載する場合 Webサイト全体の中で5枚まで

スクロール機能により画面以上の地図が見られるような場合は1枚でも申請を要する。

検索内容及び納品書(消費税含む)

検索指示項目	数量	単価(円)	費用(円)
数值地図25000(図)	1	1,575	1,575
地形情報(標高・傾斜・微地形 テキスト)	1	1,575	1,575
20万分の1日本地質図幅(図)	1	1,575	1,575
5万分の1日本地質図幅(図)	1	1,575	1,575
ボーリング柱状図(公的データ、近傍3件まで)	1	1,050	1,050
RIO-DB起震断層(図およびテキスト)	1	2,625	2,625
J-SHIS地震八ザードステーション(図)	1	1,050	1,050
指定地点における地震確率(損壊率など、テキスト)	1	1,575	1,575
液状化履歴図(図およびテキスト)	1	2,625	2,625
日本の地球化学図(図およびテキスト)	1	2,100	2,100
合計(円)			17,325

上記以外に全国位置図、交通図、詳細位置図、原発・活火山リスク情報については無償で添付されます。

内容一覧

- 1.一般地理情報
- 2. 地形情報
 - 2-1.地形図(1/25000)
 - 2 2 . 地形情報

標高データ

微地形区分

- 3.地質情報
 - 3 1.地質図・凡例 (1/200000、1/50000、1/75000)・・・検索された場合
- 4.活断層と地震
 - 4-1.活断層

RIO-DB 活断層図および附帯記事 (半径20km以内の起震断層)

RIO-DB 活断層用語説明

- 4 2 . J-SHIS 地震確率図 (50年以内に2%確率で発生する震度分布図)
- 4-3.地震可能性と評価
- 4 4 . 液状化に関するデータ (半径4km以内の液状化履歴地点)
- 5. 地球化学図

地球化学図(分布図) 近傍地点の化学分析データ

- 6. 原発リスク・活火山リスク
- 7.柱状図位置図(公開データ)

<注意>

検索指示がない場合、検索指示があってもデータが存在しない場合は報告書に 記載されません。

1.一般地理情報

当該検索地域の位置 (世界座標系)

代表地名: 川崎

中心位置: 東経139度43分47.01秒 北緯35度33分16.38秒 北西隅: 東経139度43分 7.30秒 北緯35度33分48.82秒 南西隅: 東経139度43分 7.30秒 北緯35度32分43.94秒 南東隅: 東経139度44分26.72秒 北緯35度32分43.94秒 北東隅: 東経139度44分26.72秒 北緯35度33分48.82秒

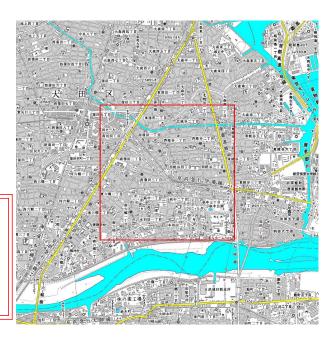
東西長: 2.00Km 南北長: 2.00Km 面積: 4.00K㎡

: 全国位置図

: 交通図



: 詳細位置図



<引用先についての情報> 国土交通省 国土地理院 電子国土地図 国土交通省 国土地理院 数値地図25000 <注意>

この数値地図データは、お客様の指示区域の地図 情報を切り出しあるいは合成して作成したもので す。

2. 地形情報

2-1. 地形図

<検索対象>

数值地図25000(地図画像)

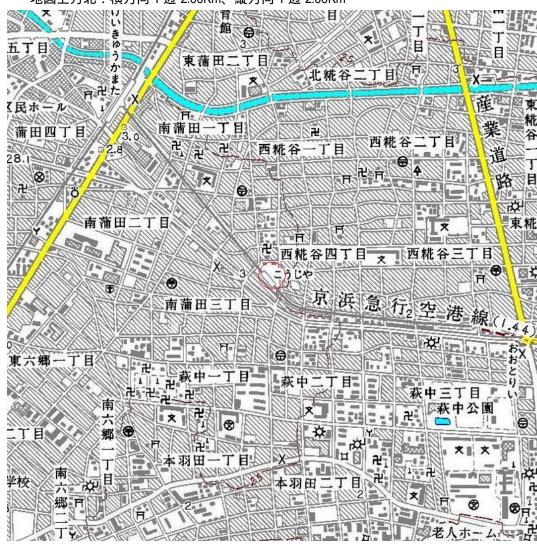
該当図郭

・1/25000数値地図: 川崎

<検索結果>

・1/25000地形図

地図上方北:横方向1辺2.00Km、縦方向1辺2.00Km



<引用先についての情報>

国土交通省 国土地理院 数值地図25000(地図画像)

この数値地図データは、お客様の指示区域の地図情報を切り出しあるいは合成して作成したものです。

2-2.地形情報

数値地形データ

<検索対象>

数値地図50mメッシュ(標高)

<検索結果>

・選択区間最高標高: 3.00m ・選択区間最低標高: 0.00m ・選択区間平均標高: 1.82m

微地形区分 (250mメッシュ)

<検索対象>

J-SHIS表層地盤

<検索結果>

- ・当該地の地盤は、第四紀完新世(1万年前~現在)の三角州・海岸低地に該当します。
- ・当該地該当メッシュ周辺の標高は最大3m、最小2mであり、最大斜度は0.11度であるので、斜面崩壊の危険はありません。
- ・当該地は三角州・海岸低地で、洪水時に浸水し、湛水します。しかし、水深は後背湿地より浅いと考えられます。海岸では、高潮に襲われる可能性があります。

<引用先についての情報>

国土交通省 国土地理院 数値地図50mメッシュ(標高)

防災科学技術研究所J-SHIS(地震ハザードステーション、地盤情報-表層地盤 注意>

この数値地図データは、お客様の指示区域の地図情報を切り出しあるいは合成して作成したものです。

3.地質情報

<検索対象>

20万分の1地質図幅(ラスタ画像版) 20万分の1地質図幅該当図郭:

1. 20万分の1地質図幅:東京

<検索結果>:

・20万分の1地質図幅データ:赤紫四角が指定範囲です。

地質図上方向が北、図の横方向20km、縦方向20km



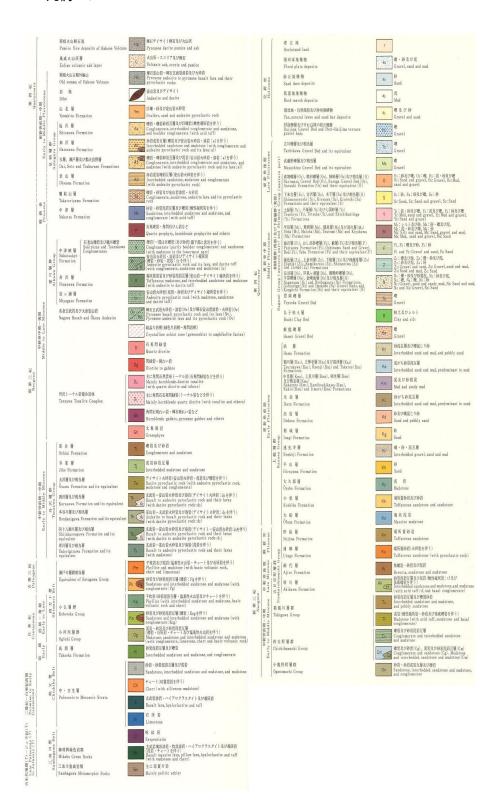
<引用先についての情報>

産業技術総合研究所 地質図幅 (ラスタ) 20万分の1 c注音

この地質図データは、お客様の指示区域の地質図情報を切り出しあるいは合成 して作成したものです。

20万分の1地質図幅凡例

凡例 1:



3.地質情報(2)

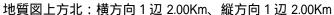
<検索対象>

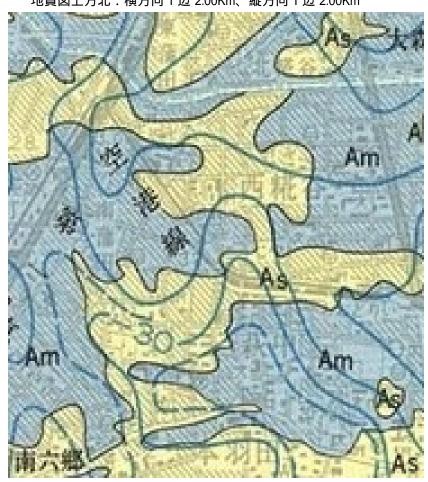
5万分の1地形図幅(ラスタ画像版) 5万分の1地質図幅該当図郭:

1. 5万分の1地質図幅:東京西南部

<検索結果>:

・5万分の1地質図幅データ。





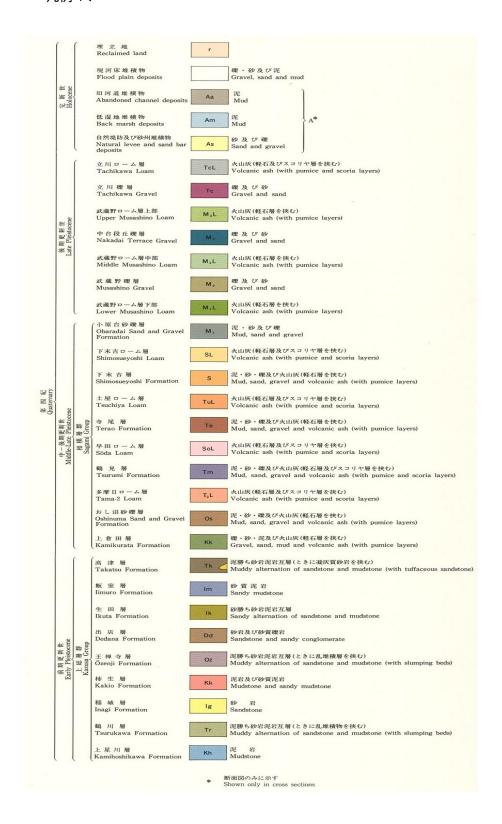
<引用先についての情報>

産業技術総合研究所 地質図幅(ラスタ)5万分の1 c注音。

この地質図データは、お客様の指示区域の地質図情報を切り出しあるいは合成 して作成したものです。

5万分の1地質図幅凡例

凡例 1:



4.活断層と地震

4-1.活断層(指定地域の中心から半径20km以内の起震断層)

-1. RIO-DB活断層図および附帯記事

<検索対象>

RIO-BD起震断層データ

<検索結果>

起震断層名=東京湾北部

<附帯記事>

活動セグメント番号: 295-01 セグメント名: 東京湾北部

一般走向: N 50°W 一般傾斜: 90°V

長さ(km): --

断層型: 活断層でない

変位の向き: S

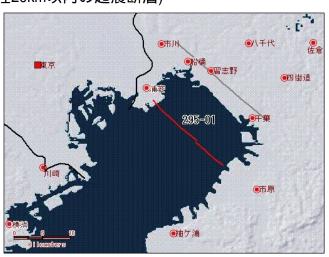
平均变位速度(m/k年):0 単位变位量(m): --平均活動間隔(k年): --

最新活動時期(西暦)変位の向き

野外調査結果: --対応歴史地震: --地震後経過率: --

将来活動確率(今後30年):

BPT分布モデル: -- ポアソン過程モデル:



<引用先についての情報>

産業技術総合研究所 地質調査総合センター 活断層データベース <注意>

このデータは、指定範囲該当のデータを産業技術総合研究所地質調査総合センター活断層データベースより引用したものです。

RIO-DB起震断層用語説明

1.一般走向

活断層の断層面が水平面と交わる線の方向のことで,ほぼ地表の断層線の方向とほぼ一致する。この線を直線で近似したときの方向を一般走向と呼ぶ。

2 一般傾斜

活断層の断層面はある傾きを持って地下に連続するが、その傾斜の変化を平均化し、地表から地下の地震を発生させる層の基底までを一つの面で近似したときの傾斜を一般傾斜と呼ぶ。

3.確実度

活断層であるかどうかの確からしさを,その認定根拠によってランク分けしたもの(活断層研究会,1991)。地形・地質などから活動の明確な証拠が確認されており,活断層であることが確実なものを確実度I,活動の証拠がやや間接的または断片的で,活断層であることが推定されるものの,その信頼度がやや劣るものを確実度II,活断層である可能性はあるが,活動の証拠に乏しく,河川の浸食などの他の原因で生じた疑いがあるものを確実度IIIとする。

4.活断層

最近の地質時代に繰り返し活動し、今後も活動する可能性のある断層のこと、このデータベースでは、約10万年前以降に繰り返し活動した痕跡のある断層を活断層として扱っている。なお、今後の活動について考慮すべき将来の期間の長さに応じて、活断層の定義に用いる過去の期間の長さが異なることがある。

5.活動セグメント

活断層を,過去の活動時期,平均変位速度,平均活動間隔,変位の向きなどに基づいて区分した断層区間のこと (behavioralsegment: MacCalpin, 1996)。固有地震を繰り返す活断層の最小単元と考えることができる。

6.活動度

活断層の活動性を平均変位速度を基準にしてランク分けしたもの (活断層研究会,1991)。平均変位速度が1,000年あたり1-10mのものをA級,0.1-1mのものをB級,0.01-0.1mのものをC級と呼ぶ。平均変位速度尾が具体的に求められない場合でも,断層による変位地形の鮮明さなどに基づいて,活動度が推定されることがある。

7.固有地震

活断層の長期的な変位の累積の大部分は,活動セグメントの全体を破壊するような活動によってまかなわれていると考えられている。このような断層活動に伴って発生する地震を固有地震と呼ぶ。固有地震を下回る規模の地震では地表には明確な断層のずれ(地震断層)が現れないことがある。

8. 最新活動時期

ある活断層が最も最近に固有地震を伴って活動した時期のこと。この時期と平均活動間隔から将来活動確率を計算することができる。

9. 地震後経過率

ある活動セグメントの最新活動時期から現在までの年数(経過時間)を,その活動セグメントの平均活動間隔で割った値。この値が1に近づくと次の活動時期(=地震)が近いことを示す。なお,1回ずつの活動間隔にばらつきがあること,および野外で得られた個々のデータに幅があることにより,地震後経過率が1を超えることもある。

10.将来活動確率

活断層は繰り返し活動するために,平均活動間隔と最新活動時期が判明すれば,将来の活動時期を予測することが可能となる。しかしながら,実際の活動間隔にはさまざまな要因によるばらつきがあることが知られている。このばらつきを考慮して,将来の一定期間内に活動する可能性を確率で示したものが将来活動確率である。

11. 震源断層

地震を発生させた地下の断層のこと、震源断層の一部が直接的あるいは間接的に地表に達したものを地震断層と呼ぶ。

12.単位変位量

活断層が1回の活動(=地震)で変位する量のことで,固有地震に伴う単位変位量は,ある地点ごとにおおむね一定であると考えられている。また,ある活動セグメントの単位変位量の平均的な値は,その長さと比例関係があることが示されており(粟田,1999),この経験式を用いて単位変位量を見積もることができる。

13.断層活動イベント

活断層が,過去において固有地震に伴って活動したこと。とくに地質学的な過去の活動の証拠は,断層が活動した時点の地表面が,地層内のある層準における変位や変形の不連続となって記録されていることが多く,この層準を(断層活動)イベント層準と呼ぶ。

14.平均活動間隔

活断層が固有地震を伴う活動を繰り返すときの平均的な時間間隔のこと。1回ごとの活動間隔にはさまざまな要因によるばらつきがあることが知られているため,将来の活動時期の予測などには複数回の活動間隔の平均値と,そのばらつきを考慮する必要がある。

15.平均变位速度

活断層の活動性を示す指標で,その認定に用いた基準となる地形や地層の変位量を,その形成時期からの時間で除した値のこと。通常は1,000年あたりの変位量として示す。平均変位速度が同じでも,単位変位量が小さければ平均活動間隔は短くなり,単位変位量が大きければ平均活動間隔は長くなる。

16.変位

活断層の活動により,断層面の両側の岩盤が互いに相対的に移動すること。地表では地面の段差や食い違い,広い範囲の撓みなどとなって現れる。

17. 变位量

活断層のずれによる相対的な移動の量である。変位量は上下(鉛直)成分,水平方向成分に区分され,さらに水平方向成分は横ずれ(走向方向)成分と傾斜方向(走向と直交方向)成分に区分される。それら3成分のベクトル和が実変位量(ネット変位量)である。

18.ポアソン過程モデル

将来活動確率を求める際の確率モデルの1つで,過去の活動時期によらず,断層が活動する確率は常に不変であるする考え方に基づくため,最新活動時期が不明の場合でも将来活動確率を計算することが可能である。ただし,この方法で得られた将来活動確率は,過去の活動時期にとらわれずに地震が発生するという仮定に基づいていることに注意が必要である。BPT分布モデルを用いたものと比較して,地震後経過率が小さい場合には高い確率値が,地震後経過率が大きい場合には低い確率値が得られる。

19. 歴史地震

歴史記録に記された大地震のこと。通常,江戸時代以前の歴史記録には,被害の記録しか残されないため,地震を発生させた断層を直接知ることはできない。したがって,活断層の過去の活動と対比するには,被害全容を把握するなどして,震源の場所を特定する必要がある。また,中世以前については,記録の欠落や誤記等があることにも注意が必要である。

20. 暦年較正年代

14C年代は,過去における自然放射能の増減の影響を受けるため,実際の暦年代との間に若干のずれが生じる。このずれを補正するために,年輪年代データ等に基づいて,14C年代から暦年代への較正手法が開発されている。その方法を用いて14C年代から推定した暦年代を暦年較正年代と呼ぶ。

2 1 . BPT分布モデル

将来活動確率を求める際の確率モデルの1つで,活動間隔の分布モデルにBrownian Passage Time (BPT)分布を用いて将来活動確率を計算する。地震調査研究推進本部の長期評価ではこの計算方法が採用されている。

2 2 . 14C年代

放射性炭素同位体年代とも言う。自然界の炭素には放射性の炭素 (14C) がある一定量含まれている。この炭素は放射壊変をおこし一定割合で減少していくため,残存する放射性炭素の量比を測定すると,この炭素を含む物質が外界から遮蔽されてからの年代を知ることができる。

<引用先についての情報>

産業技術総合研究所 地質調査総合センター RIO-DB活断層データベース <注意>

この文章は、産業技術総合研究所地質調査総合センター活断層データベースより引用したものです。

4-2. 地震確率図(50年以内で2%確率で発生する震度分布図)

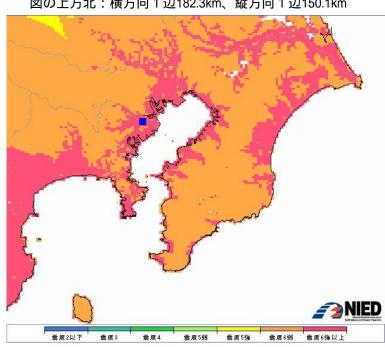
<検索対象>

J-SHIS 地震ハザードステーション

<検索結果>

- ・震度分布図
 - ・指定地域を図中に青枠で表示。

図の上方北:横方向1辺182.3km、縦方向1辺150.1km



<引用先についての情報>

防災科学技術研究所 J-SHIS地震ハザードステーション <注意>

この図は、指定範囲該当のデータを防災科学技術研究所 J-SHIS地震ハザー ドステーションより引用したものです。

4-3. 地震可能性と評価

- J-SHISの指定地域該当メッシュデータからの計算値
- ・震度6強以上の地震が発生する確率は248年に1回(30年以内に発生する確率は12.1%)、震度6 弱以上の地震が発生する確率は44年に1回(30年以内に発生する確率は67.5%)です。
- ・当該地で50年以内に2%の確率で発生すると想定される地震の震度は6.3となります。この地震の際、地表の最大速度は138.87(cm/sec)となり想定される被害は以下のとおりとなります。
- ・木造建築の場合、全壊率約50~75%、半壊率約75%以上
- ·RC造建築の場合、全壊率約10~25%、半壊率約25~50%
- ·S造建築の場合、全壊率約25~50%、半壊率約50~75%

(RC造 = 鉄筋コンクリート、S造 = 鉄骨)

*本被害予想は、防災科学技術研究所の震度予測データと村尾・山崎「震災復興都市づくり特別委員会調査データに構造・建築年を付加した 兵庫県南部地震の建物被害関数」(2002論文)の計算式による予測値(全年代)です。被害予測値は建築年代によって大きく変わり、震度6.2を想定した場合、木造建物の全壊被害率を、S34以前で42.7%、S35~S55は26.6%、S56以降は4.4%と示している例もあります。「地震防災マップ作成技術資料」(H17、内閣府防災担当)

<引用先についての情報> 防災科学技術研究所 J-SHIS地震ハザードステーション

このデータは、防災科学技術研究所 J-SHIS地震ハザードステーションのデータから計算したものです。

4-4.液状化に関するデータ

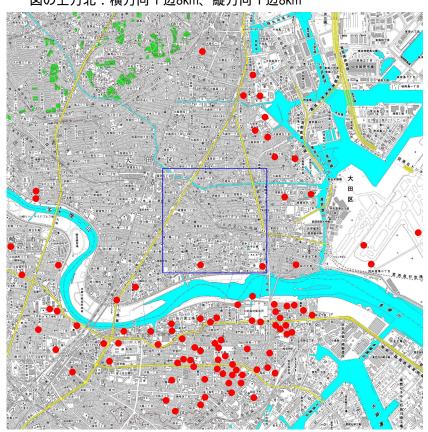
<検索対象>

日本の活断層図(1992)

<検索結果>

- ・液状化履歴点分布図
- ・指定中心地点から半径4km以内の液状化履歴点を赤丸で表示、青枠は指定区域。

図の上方北:横方向1辺8km、縦方向1辺8km



<引用先についての情報>

日本の活断層図 若松加寿江ほか著

<注意>

このデータは、日本の活断層図(1992) 若松加寿江ほか著から引用し,作成したものです。

5.地球化学図

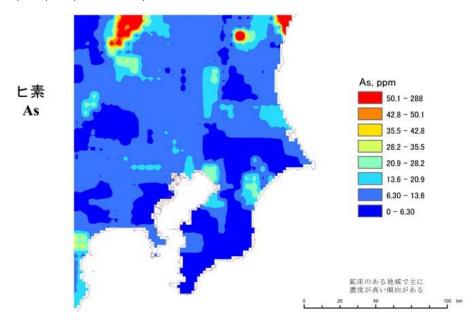
分布図

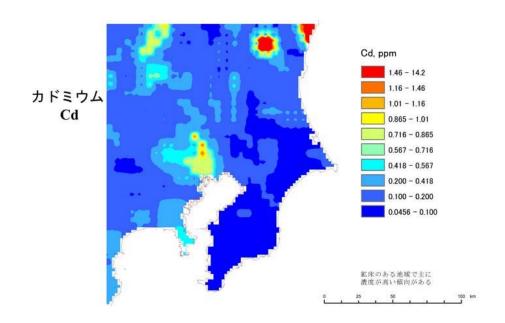
<検索対象>

産業技術総合研究所日本の地球化学図 全国3024ヶ所の河川堆積物の含有量分析結果をもとにした含有量分布図

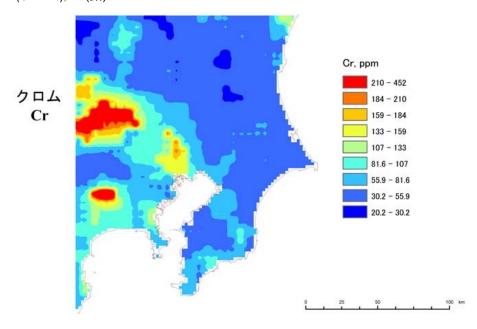
<検索結果>

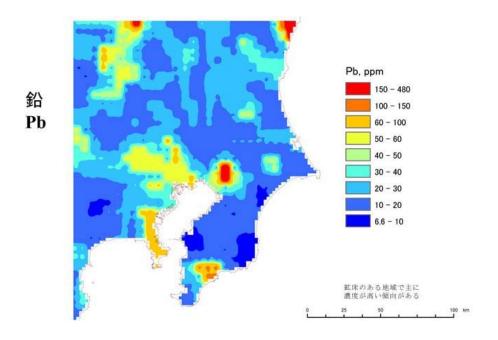
As (ヒ素),Cd (カドミウム)





<検索結果> Cr (クロム),Pb (鉛)





近傍地点の化学分析データ

<検索対象>

産業技術総合研究所日本の地球化学図(RIO-DB)

<検索結果>

指定中心地点から半径5km以内の測定点データがありません。

<引用先についての情報>

産業技術総合研究所 日本の地球化学図(2006)

<注意>

このデータは、産業技術総合研究所 日本の地球化学図から引用したものです。

6.原発リスク・活火山リスク

6-1.原発リスク

<検索対象>

ジオネット・オンライン資料

<検索結果>

・当該地の近傍100km内に原子力発電所はありません。

6-2.活火山リスク

<検索対象>

気象庁 日本の活火山

<検索結果>

・半径100km以内の活火山

No1

火山名:富士山

火山標高など(m): 3776

噴火最終年など(西暦は年):1707年

火山活動度:B

当該地からの距離(km): 93.273028355933

No2

火山名:箱根山

火山標高など(m): 1438

噴火最終年など(西暦は年):-

火山活動度:B

当該地からの距離(km): 73.843269149179

.....

No3

火山名:伊豆東部火山群 火山標高など(m):580

噴火最終年など(西暦は年):1989年

火山活動度:B

当該地からの距離(km): 93.076153154013

.....

No4

火山名:伊豆大島 火山標高など(m):764

噴火最終年など(西暦は年):1990年

火山活動度:A

当該地からの距離(km): 97.616584412946

<引用先についての情報>

原発:ジオネットオンラインまとめ(2010)、火山:気象庁 日本の活火山 c注音

このデータ(活火山)は、指定範囲該当のデータを気象庁日本の活火山から引用したものです。

7.柱状図(公開データ)

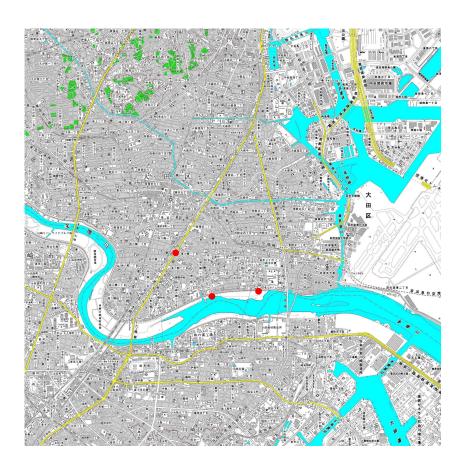
<検索対象>

国土交通省 Kunijiban、横浜市 地盤地図情報「地盤View」

<検索結果>

ボーリング位置図

- ・指定地域中心点から半径2km以内の最近傍3点までのボーリング地点を赤丸で表示。
- ・ボーリング柱状図はダウンロードし、解凍されたフォルダにPDFファイルで保存されています。



<引用先についての情報>

国土交通省 「Kunijiban」、横浜市 地盤地図情報「地盤View」 <注章>

ボーリングデータは、指定範囲該当のデータを国土交通省Kunijibanをはじめとした公開データから引用したものです。